

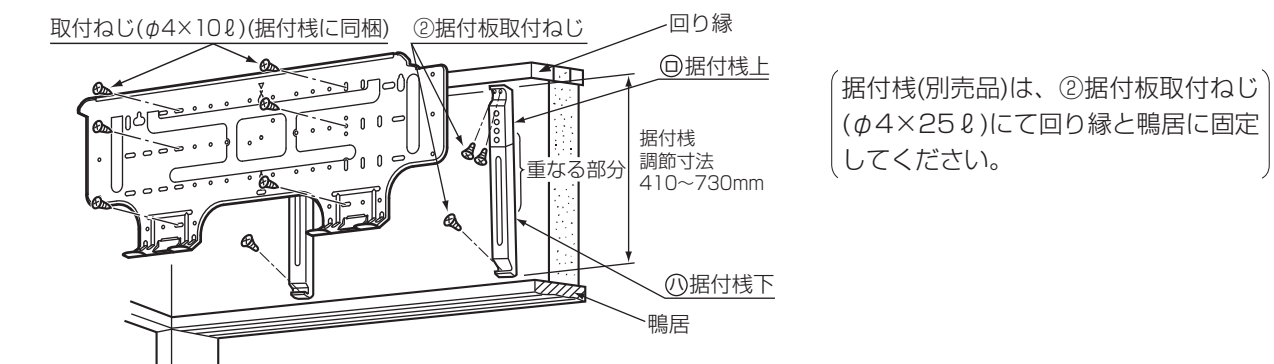
別売品や幹旋品を使用した据え付け方法

1. 据付棧 (RB-I01K1またはRB-I02K1)

回り縁と鴨居を利用する場合

据付棧(別売品)をお使いください。

- 据付棧上・下を回り縁下面から鴨居上面までの寸法に調整し、据付棧に同梱のねじ (φ4×10ℓ) で据付板を仮止めします。
- 仮組みした据付板と据付棧を②据付板取付ねじ (φ4×25ℓ) で回り縁と鴨居へ固定します。
- 据付板の水平を確認してから仮止めのねじをしっかりと締め付けます。
- 据付板の最上部と下部の引掛け部付近は必ずねじ止めしてください。



(据付棧(別売品)は、②据付板取付ねじ (φ4×25ℓ)にて回り縁と鴨居に固定してください。

お願い

- 据付板を据付棧上と据付棧下が重ならない部分で固定する場合は、M4六角ナットで据付棧下の裏からとめてください。(六角ナットはRB-I01K1、RB-I02K1に同梱しています)
- 据付棧は上と下を使用し、据付棧取付ピッチ (型紙に記載) で取り付けてください。このように取り付けない場合は、ビビリ音が発生することがあります。

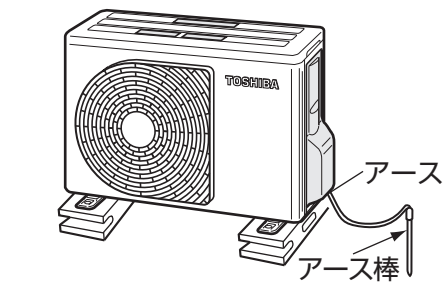
2. アース棒 (RB-Y11)

接地工事のしかた

- 室外または室内ユニットのどちらか一方のアース端子より接地工事を行ってください。

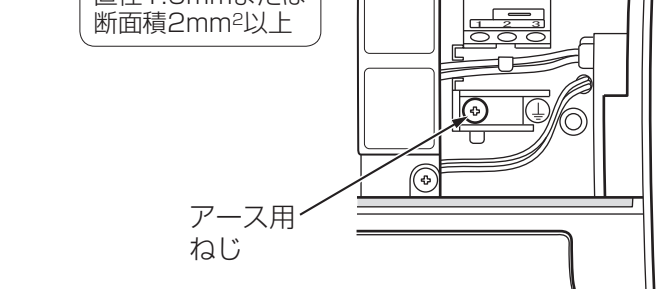
室外ユニットからアースを行う場合

アース棒は同梱されていません。(アース棒は別売のRB-Y11をお使いください。)



室内ユニットからアースを行う場合

アース棒は、付属されていません。(現地調達)



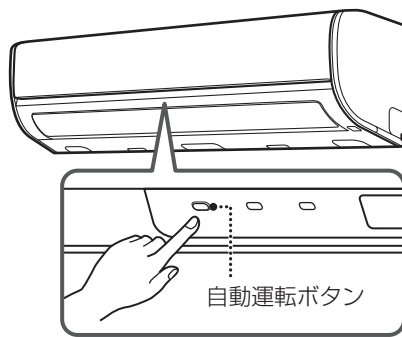
お願い

- アース工事を行う際には、電源プラグを抜いた状態で実施してください。
- 漏電ブレーカーが働く場合は衝撃波不動作形の漏電ブレーカーに交換してください。
- 漏電警報器が働く場合は漏電警報器の設定を変更してください。

据付工事完了後、必ず実施してください

試運転

- 電源プラグがコンセントに差し込まれているか確認します。
- 「自動運転」ボタンを10秒以上押すと「ビッ」と音が鳴り、強制冷房運転になります。約3分後に運転を開始します。(ボタンを押して3秒後に「ビビッ」と音が鳴りますが、途中で指を離さずにそのままボタンを押し続けてください。運転を始めないときは、配線を再確認してください。)
- 試運転を停止するときは、「自動運転」ボタンをもう一度押します。
- リモコンのボタンを押して、リモコンで運転することを確認します。



3分間再起動防止タイマーについて

エアコンを起動するときや運転を切り換えたときは、約3分間運転を始めません。これは本体保護のため故障ではありません。

こんなとき

室内ユニットが運転せず、運転ランプが点滅する

- 100V機種の場合は、電源電圧が200Vになっている可能性がありますので、電源電圧の確認をお願いします。

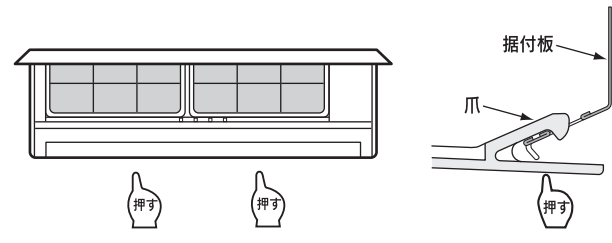
室外ユニットが運転せず、運転・タイマーランプが点滅する

- Fケーブルの接続不良が考えられます。接続の再確認をお願いします。
- 200V機種の場合は、電源電圧が100Vになっている可能性がありますので、電源電圧の確認をお願いします。

据付後の取りはずしかた (移設時など)

■室内ユニット

室内ユニット下側の「PUSH」を上を押しながら手前に引きます。



■室外ユニット

地球環境保護の観点から、ポンプダウン (冷媒回収) をしてから取りはずします。

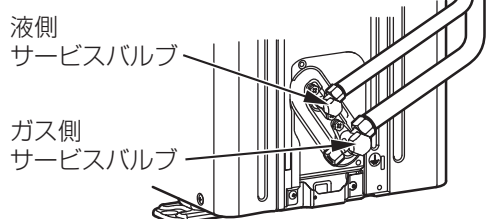
警告

ポンプダウン作業では、次のことを確実に行う

- 冷凍サイクル内に空気を混入させない
 - サービスバルブを2つとも閉じたあと、圧縮機を停止させ冷媒配管をはずす
- 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けがなどの原因になります。

●ポンプダウンのしかた (移設時など)

- ① 室内ユニットの「自動運転」ボタンを約10秒押します。(ピッと音がして強制冷房運転が始まります)
- ② 5分~10分後に液側サービスバルブの弁棒を開めます。
- ③ さらに2分~3分冷房運転後ガス側サービスバルブの弁棒を開め、運転を停止します。
- ④ 液側とガス側の接続配管を取りはずします。



こんなとき (つづき)

エアコンが誤動作するとき

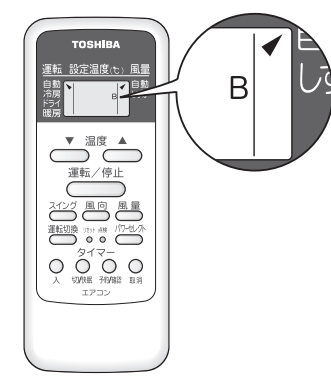
- 同じ部屋または、近接する部屋に2台室内ユニットを設置した場合、1台運転をするときに2台同時にリモコン信号を受信し、運転してしまうことがあります。このような場合どちらか一方の室内ユニットとリモコンを、B設定 (工場出荷時は、A設定です) にすることで2台同時に動く誤動作を防ぐことができます。

- 室内ユニットとリモコンの設定が異なる場合は、リモコンの信号を受け付けません。
- 100V機種と200V機種で設定方法が異なります。

手順1 リモコン側の設定方法

リモコンはB設定の場合のみ「B」と液晶表示されます。「A」の表示はありません。

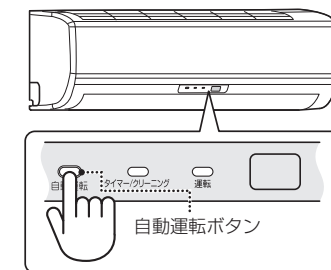
- ① 乾電池を入れて、「リセットボタン」を押してください。
- ② 先の細いもので「点検」ボタンを押します。(表示が「00」になります)
- ③ 点検ボタンを押したまま、「運転切換」ボタンを押すと設定温度表示部の右に小さく「B」が表示されます。(※A設定に戻すときは、「リセットボタン」を押してください)



手順2 本体側の設定方法

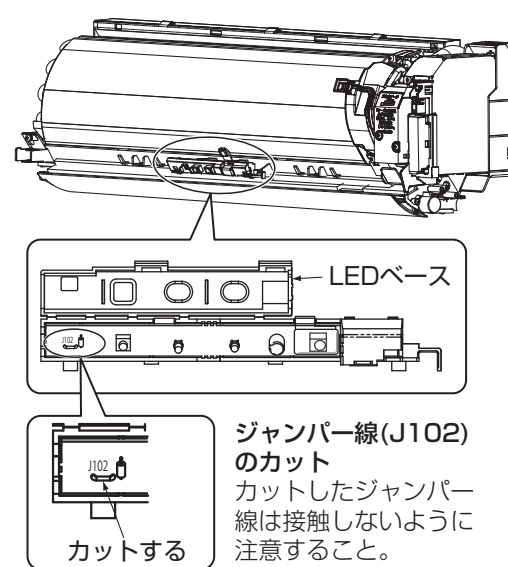
- (1) 100V機種 (2213D, 2513D, 2813D, 3613D, 4013D)

- ① B設定したリモコンの「運転切換」を押して冷房を選択します。
- ② 室内ユニットの「自動運転」を約1秒押します。
- ③ B設定したリモコンの「運転 / 停止」を押して冷房運転をします。(室内ユニットはB設定となります)
- ④ 「運転 / 停止」で停止します。



- (2) 200V機種 (2823D, 4023D)

- ① 本体パネルをはずします。(表面の「本体パネルのはずしかた・取り付けかた」参照)
※本体パネルをはずすときは、エアコンの運転を停止し、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ② LEDベースを本体から取り出してカバーを開け、LED基板上のジャンパー線 (J102) をカットします。
- ③ LEDベースのカバーを開いて、本体に元の通り固定します。
- ④ 本体パネルを取り付けます。(表面の「本体パネルのはずしかた・取り付けかた」参照)



ジャンパー線 (J102) のカット
カットしたジャンパー線は接触しないように注意すること。



本体パネルに必ず貼ってください。

手順3 動作確認

- ① 「B」に設定した場合
- ② 変更したリモコンで室内ユニットが運転することを確認してください。

以上で終了です。